

学校だより

— 令和7年10月 —



やなせ

所沢市立柳瀬中学校 校長 猪口 茂

学校教育目標

3つのKを達成しよう

○ 活躍しよう

○ 基礎・基本をしっかり身に付けよう

○ 健康な心と体を育てよう

「競技を学ぶ」「競技で学ぶ」 ～新人体育大会より～

9月18日(木)～20日(土)に、市内の各会場で新人体育大会所沢市予選会が行われました。(野球のみグランドの関係で～25日)

新人戦は、今まで部活動を引っ張ってくれた3年生が引退し、1・2年生だけで参加した大会でした。慣れないことも多い大会だったと思いますが、あちらこちらの会場で皆の素晴らしい活躍が見られました。少し紹介します。

- テニスの団体戦は、3ペアが試合をして2ペア取ったチームの勝ちとなります。1勝1敗となった後の3試合目。4ゲーム先取の試合で、相手に先に3ゲームを取られてしまいました。しかし、あきらめることなくゲームを続け、その後4ゲーム取り返して逆転勝ちを収めた男子テニス部。
- バレーの試合の線審は生徒が務めます。新人戦で慣れない上に、両チームの応援の声に圧倒されたのか揺れる線審の判断。選手はライン際のボールがどう判断されるか分からず戸惑っていました。それでも互いに声を掛け、応援も含めたチーム一丸で戦って勝利を手繰り寄せたバレー部。
- 雨の中の決勝戦。前半相手に1点を取られて始まった後半の30分。時折雨脚が強まり、滑りやすくなっているピッチの上。接触プレーで倒れてもすぐ起き上がり、何としてでも1点返そうと試合終了のホイッスルが鳴るまで攻め続けたサッカー部。

その他にも、団体戦をわずかな差で落としたために決勝トーナメントに上がれず、悔しくて、試合会場から電車とバスを乗り継いで学校へ戻り、練習を始めた女子卓球部や、試合が終わると誰よりも早く、それも大人数でグラント整備に取り掛かる野球部のような部活動もありました。

部活動では、投げる、打つ、蹴るといったそれぞれの競技のスキルとルール、攻め方などを学びます。しかし、私は部活動で、バスケや剣道といった競技自体を学ぶだけではなく、ぜひ競技で(競技を通して)学んでほしいと願っています。

何を学び、何を築いてほしいのか。例えば今回紹介した、追い込まれても慌てない不動心。苦しい時にこそ仲間を信じる信頼関係。どんな状況に置かれてもあきらめない粘り強さなどです。

映画やテレビのドラマではないので、努力したから、苦勞したから必ず報われるとは限りません。しかし、失敗したこと苦勞したことも含めて実際に経験したこと。そして、その経験を通して感じ取ったことや考えたことが、皆の成長につながります。

この後、春の学校総合体育大会まで、日が暮れるのはどんどん早くなり活動時間は減っていきます。また、暖かい部屋でのんびりしたいような寒い日も増えてくることでしょう。そうした冬を、それぞれの部でどのように乗り切るのか。そんな厳しい時期に、皆がそれぞれの競技を通してどんなことを学ぶのか。そして何を掴み取るのか楽しみにしています。

壮行会

新人戦に先立つ9月9日の全校朝会で、生徒会の主催で大会に臨む選手たちを励ます壮行会が行われました。壮行会では、部活動ごとに呼ばれステージに上がります。呼ばれた部活動のメンバーがステージに向かう間、生徒会本部の人達はその部の紹介をします。例えば、

- 素早いドリブル、正確なシュート、そしてチーム全員でつなぐパスワークが試合を盛り上げます。勝利を目指す情熱と、仲間との絆が一つになってコートに響き渡ります。女子バスケットボール部の皆さんお願いします。

といった感じです。全ての部にこうしたアナウンスが流れるように行われていて、その紹介の仕方のセンスの良さに驚きました。ステージ上での各部の決意表明も堂々と素晴らしいものでした。